

2019年7月18日

各位

日本紙類輸出組合・日本紙類輸入組合

「紙類貿易研修会」 in 東京港 研修記

当組合では、2019年度事業の一環として、昨年に引き続き両組合共催で、東京港湾施設研修会を7月17日に実施しましたのでお知らせします。

我が国のハブ港化計画の中心をなす東京港最新施設の研修会で、東京港湾施設の海上及び陸上からの施設研修、並びに東京ミナトリエでの研修など当組合ならではの豊富な内容でした。

1. 日 程 2019年7月17日(水)11:50~17:00
2. 概 要 東京港洋上研修(視察船新東京丸)~東京ミナトリエ研修
~大井埠頭コンテナターミナルハンドリング研修
3. 参加人数 34名
4. 研修記

紙類関係者を対象にした研修は、今回で10回目となる。紙類貿易の東京港扱い量は、紙類合計輸出貨物が全国の6.7%(2018年1~12月計 151,134t)、紙類合計輸入貨物が同29.4%(同 393,589t)、また古紙の輸出貨物が同41.6%(同 1,572,618t)となっている。

①研修開始に先立ち、事務局より、「輸出業務のしくみ、輸入業務のしくみ」、「紙類の輸出入実績、パルプ及び古紙の輸出実績」、「Shipping Guide 東京港特集号」の資料を配布した。

また、研修会のスケジュールについて説明をした。

②東京都視察船「新東京丸」；竹芝栈橋を出発して羽田空港・東京ゲートブリッジ外周までの港内周辺施設の研修であった。大井・青梅のコンテナ埠頭及びその他埠頭の活動状況、諸施設について、担当官による丁寧な説明により理解できた。

今回当組合研修での貸切で乗船させていただいた。なお、新東京丸は本年中に新造される予定。

③東京ミナトリエ；東京都港湾局の田場川専門課長より東京港の概要、東京2020大会時の円滑な港湾物流確保にむけた対策の説明があり、その後東京港の展望、展示物を見学した。

④大井コンテナ埠頭「日本郵船バース」研修；ターミナルビル屋上から、ガントリークレーンやコンテナヤードのコンテナ移動状況を研修した。また、東京港のコンテナ埠頭概要の説明も受けた。

研修中、天気にも恵まれ移動もスムーズに進み、当初日程通り終わることが出来た。

初参加者が殆どで、研修終了後、各施設ともに「東京港洋上の解説がよかった」「コンテナターミナルの内側を見ることができ、業務の理解が深まった」「経済の現場を海上の視点でみれた」「ほかのターミナルも見学したい」といった感想、要望が寄せられた。

以上

新東京丸



東京ミナトリエ



大井コンテナ埠頭



大井コンテナ埠頭

